

高等学 校

平成24年度

教育研究員研究報告書

公 民

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	4
V	研究の内容	5
VI	研究の成果	22
VII	今後の課題	23

研究主題	「思考力・判断力・表現力を向上させる指導と評価の一体化」
------	------------------------------

I 研究主題設定の理由

現代社会は、地球環境問題や世界的な経済不況など様々な課題を抱えている。加えて我が国には、急速な少子高齢化や震災からの復興、資源エネルギー問題など数多くの課題が存在する。将来に向けて、持続可能な社会を形成していくためには、これらの諸課題について自ら主体的に考察し、課題解決に向けて意欲的に社会参画できる公民としての資質や能力を備えた人間の育成が必要である。

平成21年の学習指導要領改訂では、言語活動の充実や思考力・判断力・表現力の育成が一層重視されるとともに、公民科においては、社会の在り方について主体的に考察するための課題探究的な学習活動の充実が求められている。本部会においても、昨年度、現代社会の諸課題について言語活動を通じて生徒間の合意形成を図り、意見調整のプロセスを重視した授業についての研究が行われた。その中で、言語活動を通じた学習における評価の在り方が課題として提示され、「学習評価」が今年度に引き継がれる大きなテーマとなった。

平成22年3月に出された中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会報告「児童生徒の学習評価の在り方について」では、高等学校の学習評価がペーパーテストを中心とした成績付けのための評価にとどまる場合が多く、観点別学習評価の趣旨を踏まえた学習評価が求められることが指摘されている。従来の公民科における学習評価についても、知識・技能に関わる評価が中心であり、学習過程における生徒の思考力・判断力・表現力などを評価する視点が弱かったと我々は認識している。その背景として、社会的事象に関する基礎的・基本的な知識・技能を習得させることが教科指導の中心となり、それらを活用する力や課題を探究する力の育成が十分でなかった点が挙げられる。今年度、国立教育政策研究所から「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」が示され、我々は、従来の学習評価の在り方を再検討するだけでなく、生徒の思考力・判断力・表現力をより一層向上させる新しい評価の在り方を確立する必要に迫られている。

学習評価には、生徒の学習成果を記録に残すという目的と、生徒の学習状況を把握し、その後の指導に生かすという二つの目的がある。本部会では、検証授業を通して評価の在り方について考察するとともに、特に、生徒の学習状況を把握し、その後の指導に生かすという目的を重視して、指導と評価の一体化に向けた研究を行うこととした。良識ある公民としての資質や能力を育成するには、基礎的・基本的な知識・技能を基に思考力・判断力・表現力等を育むことが重要であり、日常の授業において、生徒の学習状況を分析的に評価し、次の指導に生かしていくことが、より効果的な公民科教育につながると考える。また、これまでの研究において、生徒が課題探究を行う過程をどのような観点で評価するのか、次の学習に生かせる評価規準の設定はいかに行うかなどが課題として挙げられた。これらの点を踏まえ、本部会の研究主題を「思考力・判断力・表現力を向上させる指導と評価の一体化」と設定し、検証授業等を通じて提言することとした。

Ⅱ 研究の視点

1 公民科における思考力・判断力・表現力の定義

今年度の高等学校各部会の共通テーマは、「思考力・判断力・表現力を育成するための評価の工夫」である。そこでまず、公民科としての「思考力・判断力・表現力」の定義を以下のとおりとした。

○ 思考力

現代の社会的事象について興味・関心を高め、主体的に課題を設け、資料等を活用して現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察する力

○ 判断力

現代社会の諸課題を考察するための基本的枠組みを構成する幸福、正義、公正などについて理解し、これらを基盤として、その望ましい解決の在り方を適切に判断する力

○ 表現力

現代社会の諸課題について、学習の過程で考察したことや学習の成果を分かりやすく論理的に表現する力

上記の定義から生徒の現状を見ると、次のような課題が見出される。

○ 資料等に基づく根拠や理由を踏まえた意見を表明することができない生徒が見られる。

○ 幸福、正義、公正などの理解が不十分で、適切な判断ができない生徒が見られる。

さらに、昨年度の教育研究員公民科部会から引き継ぐ課題として、

○ 基礎的・基本的な知識・技能を基に思考力・判断力・表現力等を育成することが必要であり、生徒の学習状況を観点ごとに分析的に評価し、その評価をどのように次の指導に生かしていくかが重要である。

2 公民科における学習評価と研究の視点

国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」では評価規準については、設定した目標について、生徒がどのような学習状況を実現すればよいのかを具体的に想定したものであると示されている。また、学習評価を行うに当たっては、生徒の学習状況を把握して次の指導に生かすことが重要であるとしている。すなわち、学習評価を行う大きな意義とは、生徒の学力を高めるために、学習状況とその到達段階を分析的に把握し、次の指導や授業改善に生かすことにある。適切な学習評価を行うことは、教員の授業改善に資するとともに、生徒が自己の学習到達段階を把握し、学習意欲を向上させる契機にもなる。

今年度の本部会の研究テーマは「指導と評価の一体化」であり、現代社会の諸課題を考察するために、ロールプレイング等の言語活動を取り入れた学習を展開する中で、適切な学習評価を実施し、生徒の思考力・判断力・表現力の向上につなげていくことが課題となる。評価の方法としては、生徒の発言や生徒の学習状況を記録に残すなどの方法だけでなく、生徒による自己評価や生徒同士の相互評価も取り入れた。生徒自身の思考が深化した点や他者からの評価を明示することで、学習意欲を向上させることにつながると考えたからである。本研究では、学習評価を通じて生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる指導の在り方、学習評価を次の指導改善につなげる方策について、授業の実践事例を提示した。

Ⅲ 研究の仮説

高等学校公民部会では、来年度から本格実施される新学習指導要領を念頭に、平成 22 年度には主体的な学びを実践する公民科教育の研究、平成 23 年度は「合意形成」をキーワードに、基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、それらを活用して思考力・判断力・表現力等を育成し、学力向上につなげる授業内容と方法の研究に取り組んだ。しかしながら、その中でいずれも課題として挙げられたのが「評価の在り方」である。つまり、生徒の学力や学習意欲の向上を目指す過程で、いかに適切な学習評価を実施し、生徒の到達段階を把握し、次の指導の改善につなげていくかが課題となった。以上の点から、昨年度までの取組を踏まえて、評価の在り方について考察することが大きな研究課題となった。

本研究における評価とは、学習指導要領の定める目標に準拠した評価のことであり、生徒一人一人の進歩の状況や教科目標の実現状況を的確に把握し、指導の改善につなげていくためのものである。そこで本研究では、「授業時間内における生徒の学習到達状況や次への課題について、授業者及び生徒自身が把握し、授業者の指導改善や生徒の学習へのモチベーション向上につなげるための学習到達度の指標」と評価についての定義付けを行った。このことを踏まえ、仮説として、以下の 2 点を挙げた。

(1) 活用すべき知識や技能を明確化し、生徒一人一人の学習状況を分析的に評価する方法を用いることで、授業者、生徒自身が学習到達状況や次の課題を把握することができる。

生徒の学習到達状況を把握し、次の指導の改善へとつなげていくためには、授業者が授業内で適切な評価を行う必要がある。また、授業者による評価を補完するものとして、生徒自身による自己評価や他者評価を行うことで、生徒が自らの学習到達状況や次への課題を多面的・多角的に把握できるものと考えられる。授業者、生徒のいずれの評価においても、授業者が目標となる到達段階に必要な知識や技能、考察のための基本的な視点等を明確化することが必要である。その上で、一授業時間内に、内容のまとまりごとに評価を行うことで、生徒一人一人が自身の学習到達段階を把握することができ、次の課題に向けた学習意欲の向上につなげていくことができるものと考えられる。

(2) 学習評価を工夫し、指導と評価の一体化を実現していくことで、生徒の学習到達段階を高め、思考力・判断力・表現力の向上を導くことができる。

国立教育政策研究所の「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」において指摘されているように、学習意欲を向上させ、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導のためには、評価の工夫が欠かせない。

仮説(1)でも掲げたように、評価を授業者が一授業時間内に、内容のまとまりごとに行うことで、授業内で生徒の学習到達状況を把握し、その後の授業展開を修正したり、次の授業改善に生かしていくことができるものと考えられる。特に言語活動を積極的に取り入れた学習等を実施するに際しては、段階的な評価規準を設定するなどの工夫を行い、指導と評価の一体化を進めることで、生徒の学習到達段階を高め、思考力・判断力・表現力の向上を図ることができる。と考える。

Ⅳ 研究の方法

1 研究の提示方法

今年度は、「思考力・判断力・表現力を向上させる指導と評価の一体化」を目標に掲げ、その内容や方法について授業実践に有用な学習指導案として提案している。

2 研究の進め方と検証の方法

本研究会の主題設定の理由等を踏まえ、今年度は、「現代社会」の各検証授業において、次のような方法で実践研究を進めることとした。なお、事例を全て「現代社会」とした理由は、「倫理」、「政治・経済」に先行して新学習指導要領の本格実施に備えるという意味合いと、新学習指導要領解説にある「『現代社会』はこの一科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる科目として設けられている」点を踏まえてのことである。

○ 「現代社会」において、言語活動等を取り入れた学習を行う中で、授業内容に応じた段階的な評価規準を明確な形で設定し授業実践を行った。また、ワークシートなどの工夫により、学習活動に対する自己評価、生徒同士による相互評価（他者評価）、教員による評価を明示できるようにし、授業者と生徒が学習の到達状況や次の課題を把握できるようにした。

(ア) 事例Ⅰでは、「現代社会」の学習全体の導入として、社会の在り方を考察するための基本的枠組みを構成する幸福、正義、公正などについての理解を図り、これらを基盤に現代の諸課題を考察する力を身に付けさせる授業を実施した。

(イ) 事例Ⅱでは、現代社会において様々な価値観をもつ他者と協力して生きていくために必要なことや、人々の利害対立を調整する場としての政治の役割について理解させ、他者への公正な配慮が重要であることを気付かせるための授業を実施した。

○ 上記の授業実践においては、それぞれ活用すべき知識や技能を明確にした上で、現代社会の諸課題を考察するための基本的な枠組みを構成する幸福、正義、公正などについて必ず触れ、生徒が自ら考え、判断し、表現するに当たり、根拠となるものの見方や考え方を身に付けさせることを重視した。そのために、段階的な評価規準を設定して生徒に分かりやすく提示するなど、学習の到達段階を明らかにし、授業者自身が学習評価をその後の授業展開や授業の構成の改善につなげていくことにも配慮した。

○ 研究主題の検証は、指導と評価の一体化の取組を通じて、生徒の思考力、判断力、表現力がどのように向上したかを、主にワークシートやアンケートの分析により行った。また、一授業時間内に様々な形で評価を実施し、授業内容や授業展開の微調整を図る中で、生徒の思考が深まる様子を、授業者による観察や生徒のワークシート等から見取ることによって確認した。

3 研究の方法としての特質

本研究では、評価と一体化した指導の在り方について検討するとともに、検証授業では、生徒が自ら考え、判断し、表現するに当たり、根拠となるものの見方や考え方を身に付けさせることを重視した。評価の工夫に加えて、現代社会の諸課題を考察するための基本的枠組みを定着させるような授業を提案し、公民科教員が教材研究に生かせるものとした。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **思考力・判断力・表現力を育成するための評価の工夫**

教科における思考力・判断力・表現力とは

- 【思考力】 現代の社会的事象について興味・関心を高め、主体的に課題を設け、資料等を活用して現代社会の諸課題を多面的・多角的に考察する力
- 【判断力】 現代社会の諸課題を考察するための基本的枠組みを構成する幸福、正義、公正などについて理解し、これらを基盤として、その望ましい解決の在り方を適切に判断する力
- 【表現力】 現代社会の諸課題について、学習の過程で考察したことや学習の成果を分かりやすく論理的に表現する力

現状と課題

- 【現状】 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識・技能を習得させることが中心であり、それらを活用する力や課題を探究する力の育成が十分ではない。学習評価についても、知識・技能に関わる評価が中心であり、生徒の学習状況を分析的に把握し評価する視点が弱い。
- 【課題】 よりよい社会の形成に向け、主体性をもって社会に参画し、課題を解決できる力を身に付けさせるためには、基礎的・基本的な知識・技能を基に思考力・判断力・表現力等を育成することが重要であり、生徒の学習状況を観点ごとに分析的に評価し、その評価をどのように次の指導に生かしていくかが大きな課題である。

公民部会主題

「思考力・判断力・表現力を向上させる指導と評価の一体化」

仮説

- 活用すべき知識や技能を明確化し、生徒一人一人の学習状況を分析的に評価する方法を用いることで、授業者、生徒自身が学習到達状況や次の課題を把握することができる。
- 学習評価を工夫し、指導と評価の一体化を実現していくことで、生徒の学習到達段階を高め、思考力・判断力・表現力の向上を導くことができる。

具体的方策

- 社会の在り方を考察するための基本的枠組みを構成する幸福、正義、公正などを基に現代社会の諸課題を考察させ、①自ら考えて意見を表明する、②一定の根拠に基づいて適切に表現できる、③反対意見等を踏まえて課題解決に向けた方策を提案できる、といった段階的な評価規準を設定して、討論活動等を行わせる。
- ワークシート等の工夫により、学習活動に対する自己評価、生徒同士による評価、教員による評価を明示し、これらの評価を通じて生徒に自己の学習状況と到達段階を把握させることで、その後の指導改善につながる情報を得ることができる。

検証・評価

習得した知識・技能や社会的事象を把握するための基本的枠組みを活用して主体的な考察が深められているか、自己評価・他者評価等を通じて生徒が自らの学習の到達段階を理解し、これらの評価を通じて思考力・判断力・表現力を向上させることができたかをワークシートや、アンケートを活用して検証する。

科目名	現代社会	学年	第1学年
-----	------	----	------

(1) 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

- ア 単元名 (1) 私たちの生きる社会
- イ 使用教材 『新現代社会』(第一学習社)

(2) 単元(題材)の指導目標

- ・ 大項目(2)及び(3)において現代社会の諸課題を考察する基盤として、本単元で幸福、正義、公正などの考え方をを用いて、主体的に考察する枠組みを身に付けさせる。
- ・ 資料の活用及び言語学習を通して、現代社会で生きる人々には様々な幸福の形があることを理解させた上で、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。
- ・ 現代社会の諸課題に対する関心を高めさせ、人間としての在り方生き方について主体的に考察することの大切さを自覚させる。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	地球環境問題における諸課題について、ケーススタディ等を通して関心を高め、自分自身に関わる問題として捉えられている。	地球環境問題について、幸福、正義、公正の観点から多面的・多角的に考察し、自己との関連を見出して課題を探究している。	地球環境問題について、諸資料を正確に読み取り、課題に関する情報を適切に選択し活用している。	地球環境問題について、問題の背景や構造、それに対する様々な取組について理解している。

(4) 単元(題材)の指導計画(4時間扱い)

時間	学習内容	学習活動	評価規準(評価方法)
1	かけがえのない地球	・地球環境の変化に関する資料を基に、身近な環境問題について考察し、それらの問題と自己との関連を見出し、ワークシートに記入する。	ア、ウ ・様々な環境問題について関心を高め、意欲的に課題に取り組んでいる。〈観察〉 ・資料から得られた情報と自身の生活とを結び付けて考察している。〈ワークシート〉
2	むしばまれる地球の環境	・地球温暖化防止に関する国際的な取組について、各国の利害対立を踏まえてグループで討論を行う。	イ、エ ・実際の事例を基に、環境問題が国家の枠を超えた地球規模の問題であることを理解し、その知識を身に付けている。〈ワークシート〉 ・発展途上国と先進国との間で地球温暖化防止をめぐる利害の対立があることを理解し、自己の課題とつなげて考察、探究し、その過程や結果を適切に表現している。〈発表〉〈観察〉

3 (本時)	ケーススタディ 「環境保全か産業の 発展か」	・事例研究やワークシートを活用した意見交換を通して、立場により様々な幸福の在り方があることを理解し、それぞれの立場に依拠した見解をワークシートに記入する。	イ、エ ・現代社会の諸課題を公正の視点から判断し、適切に表現している。 <ワークシート> ・現代社会を考察する基盤となる基本的な枠組みについて理解し、その知識を身に付けている。 <ワークシート>
4	〇〇高校生として考える環境問題	・環境問題と産業の発展について、これまでの学習を踏まえて、〇〇高校生としての意見をレポートにまとめる。	ア、イ ・身近な環境問題について関心を高め、自身の問題として考察している。<観察><レポート> ・自身の立場や意見を適切に表現している。<レポート>

(5) 本時（全4時間中の3時間目）

ア 本時の目標

- ・生徒は、環境問題が身の回りの出来事と関連していることは理解しているものの、それを具体的に自らの問題として捉えることは難しい。様々な地球環境問題を生徒が主体的に考察できるように、事例研究を通して学習させる。
- ・問題を考察するための枠組みとして幸福、正義、公正などの視点を用いて現代社会の諸課題を捉えさせる。
- ・生徒の発言やワークシートの記述内容を授業内で評価し、それらを題材として全体に提示するとともに（教員による評価）、生徒相互の間でお互いの意見を受け止め評価し合うことにより、主体的な学び合いを目指す（生徒による評価）。

イ 本時の展開

	ねらい・学習活動等	評価の観点				評価規準
		関	思	技	知	
導入	○テーマ「地球環境問題に関わる立場の違い」を確認し、A区の話について理解する。本日のテーマと前時までの学習との関連を踏まえて、工場立地による産業振興策と緑地保全を重視する考え方が対立関係にあることを理解する。				●	○地域には、様々な立場の人が、互いに異なる意見や要望をもって生活していることを理解している。<観察>
展開 1	<p>《第一段階》 個々の意見を表明する。</p> <p>○A区の産業発展を推進しようとする政策について、賛成か反対かを、その理由も含めて明確に表明する。</p>		●			○賛成又は反対の立場から適切に意見を述べている。 <ワークシート>

	<p>《第二段階》 具体的な立場について考える。</p> <p>○自分の意見（賛成又は反対）は、どのような立場の人から出される意見なのかを考え、その立場の具体例を発表する。</p>	●		<p>○賛成又は反対の意見が、現実の社会において、どのような立場の人の意見を代弁するものなのかについて考察し、その具体例を適切に表現している。〈発表〉</p>
<p>【ねらい】 産業振興策に対する賛成又は反対の意見を表明させるとともに、それがどのような人々の意見を代弁するものなのかを考察させ、多様な幸福観が存在する背景には、様々な立場や見解があることを理解させる。</p>				
展 開 2	<p>《第三段階》 ワークシートを活用した意見交換（p10 資料1）で議論を深める。</p> <p>○《第一段階》で述べられた他の生徒の意見に対して反対の立場に立って問題を考察し、意見の相違点を意識しながら、反対意見を表明する。</p> <p>.....</p> <p>[それぞれの立場からの主張（例）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興は、地域の雇用を増加させ、経済の活性化にもつながる。 ・緑地保全は、将来世代にも配慮した地球環境の保護につながる。 <p>.....</p>	●		<p>○《第一段階》で示された意見に対して反対の立場を明確にするとともに、その立場に立った意見を根拠に基づいて適切に述べている。</p> <p>〈ワークシート〉</p>
<p>【ねらい】 意図的に反対意見を述べさせることによって、意見の相違点に気付かせ、問題の対立構造を適切に把握させる。</p>				
展 開 3	<p>《第四段階》 正義について考える。</p> <p>○産業振興策について賛成又は反対の意見を支持するのはどのような立場の人であるのかを整理する。</p> <p>○本事例を基に、社会の在り方について公正を意識して考えるとともに、自身の考えた正義について発表する。</p>	●		<p>○産業振興と環境保全の立場について、幸福、正義、公正などの観点から多面的、多角的に考察し、両者の立場を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。〈発表〉</p> <p>〈ワークシート〉</p>
<p>【ねらい】 意見の対立する課題を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる。</p>				

ま と め	○産業振興と環境保全に関わる課題について、幸福、正義、公正などの観点をどのように用いて考察したか、ワークシートに記入する。				●	○幸福、正義、公正等の現代社会を考察する基盤となる基本的な枠組みについて理解し、その知識を身に付けている。 <ワークシート>
-------------	---	--	--	--	---	---

(6) 本時の振り返り

- ア 生徒自身が他の生徒を評価する活動を通して、どのような枠組みで現代社会の諸課題と向き合っていくことができるのかを理解し、実践することができた。
- イ ワークシートを活用した意見交換は対話相手の取組に左右される面が多いので、生徒同士の相互評価が適切に行われていない場面も見られた。
- ウ 生徒の発言や記述内容を授業内で取り上げ、評価することによって、生徒がどのように思考を深めたのかを把握しようとしたが、十分にはできなかった。
- エ 教員による評価を通じて、様々な立場の相違について意識させた上で(幸福観の対立)、一方の立場を明示させることにより、根拠をもって意見を述べられる生徒の数が増加した。

(7) 結果の分析

生徒の思考力・判断力・表現力が、評価を通じてどう変化したかについて、主にワークシートとワークシートを活用した意見交換における記述内容を比較する方法で検証を行った。

ア 第一段階における検証とその結果

工場誘致による産業振興策に関して、生徒に賛成・反対の意見を表明させたが、ワークシートに取り組む前に評価規準について説明し、賛成・反対の理由や根拠を明らかにするよう指示を行った。その結果、P. 10の表に示すように、明確な根拠を基に意見を述べることができた生徒は約半数であった。これは、日常の学習状況から判断すると比較的良好な数値であり、賛成・反対の意見は述べているが根拠が示せない生徒、課題の認識が十分でない生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるために、指導と評価の一体化の観点から、どのような工夫を行うかが、この後の授業における指導の重点の一つになった。

イ 第三段階における検証とその結果

第一段階、第二段階を受けて、幸福についての考え方は立場によって異なることを理解させるとともに、幸福の追求が、時として他者や社会全体の利益と対立することがある点を指摘した。その上で、ワークシートを活用した意見交換を実施して、今度は、他者が記述した意見と反対の立場に立って、生徒に意見を表明させた。この時、評価規準と評価の段階について説明するとともに、互いの立場を踏まえながら、意見の対立点や対立構造を意識するよう指示を与えた。その結果、表に示すとおり、明確な根拠を基に反対意見を述べている生徒の割合が約7割となり、第一段階に比べて、約2割の生徒に思考力・判断力・表現力の向上が見られた。また、課題の認識が十分でない生徒や意見表明ができない生徒の割合についても、約2割から約1割へと半減した。以上の結果から、評価規準や評価の段階を明示する等の工夫を通じて、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させることが可能であることが実証できた。

《第一段階》

評価規準	評価の段階	A	B	C	合計
賛成又は反対から適切に意見を述べている。	立場	根拠を示して適切に意見を述べている。	意見を述べている。	課題の認識が十分でない。	
	賛成	5名	0名	0名	5名
	反対	12名	8名	5名	25名
	不明確	0名	0名	2名	2名
	人数	17名	8名	7名	32名
	割合	53%	25%	22%	

《第三段階》

評価規準	評価の段階	A	B	C	合計
反対の立場に立った意見を述べている。		根拠を示して適切に反対意見を述べている。	反対意見を述べている。	課題の認識が十分でない。	
	人数	22名	7名	3名	32名
	割合	69%	22%	9%	

資料 1

授業プリント【地球環境問題②】

組 番号 氏名 : _____

本日のテーマ「

について考えてみよう」

はじめに

ある国のとあるA区での架空のお話です。A区は産業の町として有名で、町のいたるところにたくさんの工場があります。A工業高校というとても立派な工業高校もあります。ある時、A区では次のような政策を検討していることが明らかになりました。

「A区の全ての緑地(自然にある森林や公園)を工場に変えて町の活性化を目指します！」これには区民の間でも「仕事が増える」「憩いの場がなくなる」などの賛成、反対意見が出てきました。このお話を基に本日は考えていきましょう。

《第一段階》意見を述べよう

区の提案について、賛成か反対かを明確にして、その理由も書きましょう。

《第二段階》「 」を考えてみよう

その意見は「誰」が「幸福」を求めた意見なのかという立場を示すと色々な視点が見えてくる。
A区に住む様々な立場の人を考えてみよう。

例) 私(男子高校生)	

《第三段階》意見を考えよう

第一段階に対して、一度認めた上で(譲歩)反対意見を書いてみよう。
ただし、第三段階では「誰の立場から」という視点を必ず入れましょう。

例)私(男子高校生)は～の点から反対・賛成です。

--

《第四段階》正義について考える①

賛成

テーマ『A区の工場建設について』

反対

誰	どのような意見から

誰	どのような意見から

様々な正義

--

まとめ

--

本日の感想

--

地球環境問題について考えてみよう

《第一段階》

記入者記号

--

《第三段階》

記入者記号

--

【ワークシートを活用した意見交換の進め方について】

生徒には自分だけが分かる記入者記号を決めさせ、氏名の代わりにその記号を記入させる。学期の初めに記号を教員に申告し、教員と生徒本人が記入者記号から人物を特定できる状態にしておく。

《第一段階》記入後、教員がプリントを回収し、《第三段階》で別の生徒に渡るように、全て混ぜてから順番を入れ替えてプリントを再配布する。

《第三段階》記入後は全員分を縮小コピーして生徒に配布し、自己の意見や見解について、幸福、公正、正義などの視点を踏まえて記述できているものや対話がうまく成り立っているものなどを紹介する。その際、評価の規準を明示して、どのような観点で評価が行われるのか、どのような記述がなされると説得力が増すのか等についてコメントする。

3 実践事例Ⅱ

科目名	現代社会	学年	第1学年
-----	------	----	------

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 民主社会と倫理
- イ 使用教材 『高等学校 現代社会 改訂版』（清水書院）

(2) 単元の指導目標

- ・ 民主社会において、各人が自己の個性を發揮し、また同時に他者の人格を尊重し、共に協力して生きていくことの大切さを理解する。
- ・ 互いを尊重し協力していくために、それぞれの立場の幸福を考え、社会における正義や、他者に対する公正な配慮を行うことが重要であることについて自覚と考察を深める。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	現代社会において、立場や意見の異なる人々が共に生きていくために、対立や衝突を民主的な方法で解決しようとしていることを自らの問題として捉えている。	立場や意見の異なる人々が共に生きていくための解決策について、幸福、正義、公正などの枠組みを用いて考察し、ワークシートやグループワークなどを通じて適切に表現している。	現代社会の諸課題を考察するために、異なる立場の人々の意見をインタビューや様々なメディアを通して資料収集し、効果的に活用している。	自分自身の幸福を求めただけでなく、立場や意見の異なる人々の意見や考え方を尊重し、互いに協力して社会生活を行うことの大切さを理解している。

(4) 単元の指導計画と指導評価（3時間扱い）

時間	学習内容	学習活動	評価規準（評価方法）
1	民主社会と倫理① （民主政治、自由と責任）	・ 民主政治の基礎となる政治的自由の確立について理解を深めるとともに、政治による利害調整について考察するために、地域の様々な立場の人々の意見や要望について検討する。	ア、イ ・ 人権思想の確立について関心を高め、自由の獲得に伴う責任について、自己の生き方と関連させながら考察しようとしている。＜観察＞ ・ 地域の様々な立場の人の意見や要望について仮説を立て、その優先順位を考察し、適切に表現している。 ＜ワークシート＞

2	民主社会と倫理② (共生)	・地域の様々な立場の人々の意見や要望について調査し、その結果をグループ協議で話し合い、グループとしての意見を集約し、発表する。	イ、ウ ・地域の人々への聞き取りやアンケート等の調査を実施し、それらをまとめた資料を適切に活用してグループ協議を行い、協議の過程や結果を適切に表現している。 <発表><ワークシート>
3 (本時)	民主社会と倫理③ まとめ	・意見の異なる人々の利害関係をどのように調整すべきかについて考察し、社会全体の正義や公正に配慮しながら、グループ協議を踏まえて自分の意見を発表する。	イ、エ ・まちづくりの在り方について、幸福、正義、公正などの観点から多面的・多角的に考察し、グループ協議の過程や結果について適切に表現している。 <ワークシート><発表> ・現代社会の在り方を考察する基盤として幸福、正義、公正などについて理解し、その知識を身に付けている。 <ワークシート>

(5) 本時 (全3時間中の3時間目)

ア 本時の目標

- ・地域のまちづくりを題材にして、現代社会における個人と社会との関係について、様々な立場を踏まえた討論活動を行わせ、幸福、正義、公正などの基本的枠組みを基に社会の在り方を主体的に考察させる。
- ・民主政治は国民の多様な意見を基礎に成り立っており、利害対立を調整する場としての政治の役割とその重要性について理解させる。

イ 本時の展開

	ねらい・学習活動等	評価の観点				評価規準
		関	思	技	知	
導入	○前回の役割別グループによる発表と討議において、地域の様々な立場の人々にそれぞれの要望があったことや、発表・討議の取組を生徒同士が評価し合ったことを振り返る。 [六つの役割] a 地域に住む高齢者 b 建設中の新キャンパスに通学予定の大学生 c 地域商店街の店主 d 本校の生徒 e 幼い子供を育てる母親 f 地元の建設業者				●	○地域には、様々な立場の人が、互いに異なる意見や要望をもって生活していることを理解している。

<p>展開 1</p>	<p>○本時は役割を混合したグループを編成し、前回の役割別グループ内で話し合った意見を混合グループ内で発表するとともに、異なる立場の人々の意見を聞き取り、ワークシートに整理して記入する。</p> <p>○各役割からの発表を基にグループ内で話し合いを行い、ランキング（優先順位）を決定する。決定したランキングとその根拠を各グループの代表者が発表する。</p> <p>○話し合いや発表を通じての自己の気づきや変化・成長などを自己評価し、ワークシートに記入する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p>				<p>○異なる立場の意見に対して関心をもち、前時までに調べた内容を基に課題を意欲的に探究している。</p> <p>○様々な立場や考え方を踏まえて意見集約を行い、根拠を示して適切に表現している。</p> <p>○話し合いの過程や結果を公正に判断し、それらを踏まえた自己の学習評価をワークシートに適切に記入している。</p>
<p>【ねらい】 学校近隣駅周辺の人々のそれぞれの幸福を達成するためにグループ内で話し合いを行わせるとともに、利害調整を図るためには、正義・公正などの枠組みを基に考察することが重要であることを理解させる。また、自己評価や他者評価を通じて生徒自身の気づきと成長を促す。</p>						
<p>展開 2</p>	<p>○黒板に明示された資料を基にして、幸福、正義、公正などの観点を強く意識しながら、再度グループ内で話し合いを行う。</p> <p>.....</p> <p>[資料]</p> <p>*その優先順位は「正義」について考えられていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての人にとって望ましい解決策を考える。 ・社会全体にとって正しいと思われる解決策を考える。 <p>*その優先順位は「公正さ」が確保されていますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの立場の人が適切な配慮を受けている。 ・多くの人が正しいものとして受け入れられる。 ・少数者に配慮して全体の幸福が図られている。 <p>.....</p>	<p>●</p>				<p>○幸福、正義、公正の意図を適切に理解し、それぞれの幸福の対立を踏まえて、明確な根拠に基づく公正な判断を行っている。</p>

	<p>○ 2回目の話し合いを通じて得られたランキングの結果について、各グループの代表者が発表する。</p> <p>○ 本時の授業における取組を評価する。</p>		●			<p>○幸福、正義、公正などの視点を明示しながら、適切に話し合いの結果を表現している。</p> <p>○本時の授業について、多面的・多角的な視点から自己の評価を行っている。</p>
<p>【ねらい】 自らが仮説を立て(資料1)、調査(資料2)を行い、グループワーク(資料3)に取り組む中で、それぞれの立場の対立とそれを解決するための様々な視点を知り、さらに自己評価と他者評価を通じて自分自身の気付きと成長につなげる。</p>						
まとめ	<p>○社会の様々な立場からの意見や要望を調整することは大変困難なことではあるが、その解決のために考察し議論し続けることが重要であり、その調整方法として、この後に学ぶ政治の役割があることを理解する。</p>				●	<p>○民主政治は国民の多様な意見を基礎に成り立っており、利害対立を調整する場としての政治の役割とその重要性について理解している。</p>

(6) 本時の振り返り

ア 地域の活性化をテーマに自ら仮説を立て、それを検証するための調査を行い、グループワークを通じてそれぞれの立場に立って話し合いを行わせることで、それぞれの幸福を実現させるためには、正義や公正などの基本的な枠組みを用いて主体的に考察し続けなければならないことを理解させることができた。ここでのグループワークは、(A)同じ立場を共有する生徒同士での協議、(B)異なる六つの立場の生徒間での協議の二段階の方法で実施した。

イ 自己評価や生徒同士による相互評価を通じて、自分とは異なる視点をもった周囲の生徒から学び、自身の気付きや成長を促されたことが一部生徒の感想からはうかがうことができた。しかし、これらの評価に対する意識付けを全生徒に対して十分に定着させるまでには至らなかった。

ウ 近隣地区のまちづくりという身近な話題を通じて、世の中には様々な立場に基づく多様な意見が存在することを実感させることができ、利害対立を調整する場としての政治の役割とその重要性について認識させることができた。

(7) 結果の分析

思考力・判断力・表現力が評価を通して向上しているかどうかを、展開1及び展開2において活用した「資料3」の「作業④における自己評価」の記述と「作業⑨における自己

の取組に対する評価」の記述内容とをそれぞれ比較する方法で、以下のように検証を行った。

ア 検証の方法

「作業④における自己評価」と「作業⑨における自己の取組に対する評価」の各段階で、以下の①～③について、

- ① それぞれの立場における幸福観の違いについて考えたか。
- ② 公正な配慮を行うことが重要であることを理解できたか。
- ③ 社会における正義について考えたか。

(①～③は本時の単元目標・本時の目標に記載していたもの)

生徒の文章からそれと読み取れる記述があったものを数え、その全体から見た割合を算出した。この割合が評価を通して増加していれば、思考力・判断力・表現力が向上したと判断してよいと考えた。その根拠としては、社会の在り方を考察する基盤としての幸福、公正、正義などの基本的な枠組みを押さえさせることで、生徒の思考が深まり、根拠に基づく判断が可能になるからである。論理的な記述という観点から、表現力についても同様と考えた。

イ 検証の結果

①については、立場が異なるもの同士でグループ討議を行わせることで、自己評価を通じて比較的容易に生徒自身が自らの変化を実感できたものと考えられる。②については、評価の前後で33%から63%へと2倍近くに数値が上昇した。この要因として、授業の展開2において、特に公正と正義についての視点を模造紙にまとめたものを黒板に掲示して説明するなど、評価の直前に授業者が適切な指示を与えた点が大きく影響したと考えられる。一方、63%という数値が全体からみて十分な値であるといえるかどうかについては検討の余地がある。③についても②と同様であり、33%から68%へと数値は大きく上昇しているが、クラス全体の数値として十分であるかどうかについては④の検討を含めて考慮の余地がある。

思考力・判断力・表現力の規準	評価を通じた変化
① それぞれの立場での幸福の違いについて考えたか。	58%→95%
② 公正な配慮を行うことが重要であることを理解できたか。	33%→63%
③ 社会における正義について考えたか。	33%→68%
④ ①～③のいずれかがプラスに変化した生徒の割合	80%

テーマ【他者とともに生きる】

年 組 番 氏名

本校の最寄駅周辺には、昔からの商店街があります。しかし今は、あまり活気がありません。一方で、来年度には近隣地域に大学の新キャンパスが開設されます。そのことをきっかけに、商店街と自治会などが連携した取組が始まったそうです。また区役所による、周辺地域の道路や駐輪場の整備なども計画されています。

…駅周辺地区のまちづくりについて(区役所HP参照)

☆仮説

①以下の立場の人々を例に取り、それぞれどのような要望があるか考えてみよう。(5分)

a 地域に住む高齢者

b 新キャンパスに通学予定の大学生

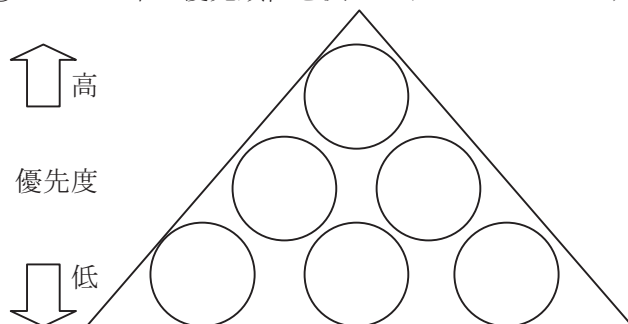
c 地域商店街の店主

d 本校の生徒

e 幼い子供を育てる母親

f 地元の建設業者

② a～f の中で優先順位を決めてランキングしてみよう。(5分)



理由

年 組 番 氏名

私たちの立場 []

☆事前調査 10月 日 () までに調査してくること！

私の調査方法 ()

調査結果

[

☆グループワーク(A) (同じ立場を共有する生徒同士による協議)

それぞれの調査結果を発表する。	
① a 自分の調査結果を発表する。 b 他のメンバーの意見をメモする。	
c 他のメンバーの意見を評価する。 【評価の観点】 1. 積極的に調査を行ってきたか。 2. 分かりやすく表現できているか。など	
() さん	() さん
() さん	() さん
() さん	() さん
②評価を発表する。	
③他のグループメンバーからの評価を受けて考えたことや、これからの目標・課題とすることを書こう。	
④このグループ(立場)の意見のまとめ →まとめた意見を次のグループワーク(B)で発表する。	

☆グループワーク(B) (異なる6つの立場の生徒間での協議)

①それぞれの立場の意見を発表し、メモをとる	
a 地域に住む高齢者 () さん	d 本校の生徒 () さん
b 新キャンパスに通学予定の大学生 () さん	e 幼い子供を育てる母親 () さん
c 地域商店街の店主 () さん	f 地元の建設業者 () さん

②それぞれの立場からの発表を基に話し合いを行い、実現を望む優先順位（ランキング）を決定する。

第1位	第2位	第3位
-----	-----	-----

理由

③各グループから発表する。

④グループ内での話し合いや他のグループの発表において、

- ・周りのみんながどういう視点をもっていたか
- ・それを自分はどう感じたかを基に“自分の気づきや変化・成長”などを自己評価する。

年 組 番 氏名

⑤ ④の自己評価の発表

⑥先生から

⑦再度、優先順位（ランキング）を話し合う

	②での ランキング	再度、話し合ってみての ランキング
1位		
2位		
3位		

理由

⑧先生のコメント

※各自でメモをとる

⑨自己の取組に対する評価 ※アンケート形式で下の表に記入

- Q1. グループワークを通じて、異なる立場の考え方を知ることができた。
 Q2. ランキング等の作業において、自分の意見に基づき、優先順位や結論を導くことができた。
 Q3. グループワークを重ねることで、自分の考えをうまく相手に伝えられるようになった。

*自己評価 (あてはまる) 5・・4・・3・・2・・1 (あてはまらない)

項 目	Q 1	Q 2	Q 3
評 価			

<授業の感想>

VI 研究の成果

各実践事例では、ワークシートに「評価を行うことによって自己の学習課題や学習の到達段階が明確になり、次に生かすことができた。」などの感想が記入され、評価を通じて今後の学習に対する生徒の意欲が高まる傾向が見られた。こうした生徒の自己評価や2本の実践事例の検証から、授業の各段階において適切な評価規準を設けて生徒に到達目標として明示し、指導と評価の一体化を図ることで、生徒の思考力・判断力・表現力を一定程度向上させることが可能であることが実証できた。

1 活用すべき知識や技能を明確化し、生徒一人一人の学習状況を分析的に把握できる評価方法を用いたことにより、授業者や生徒自身が学習到達状況や次の課題を理解することができ、効果的に思考力・判断力・表現力を向上させることができた。

- (1) 本研究では、ロールプレイング等を活用した課題探究学習を通して、自己と他者との立場や主張の違いを踏まえながら、多くの人が納得できる解決策を模索する中で、社会全体の幸福や正義の実現はいかにあるべきかを生徒が思考し判断する過程において、学習評価を取り入れた。評価を通じて学習の到達点を明確化することで、生徒が自らの課題に気付くと同時に、授業者もこれらの評価を踏まえて次の学習活動における指導の改善を図ることが可能になった。授業時間内で評価を行い、評価を通じて指導の方向性を確認していくことで、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる学習効果を高めることができたと言える。
- (2) 実践事例Ⅱでは、地域のまちづくりに対して、様々な意見や要望があることを想定し、グループ討議を通じて合意形成を図る活動を行った。ワークシートを工夫するとともに、二段階の協議とランキングの検討作業を進める中で、生徒は自らの学習の到達段階を認識し、教員も生徒の自己評価を踏まえてその後の指導内容に変更を加えるなど、評価を指導の改善に直接つなげていくような取組を実践することができた。また、検証授業の翌日に、異なるクラスで行われた同一内容の授業において、評価の結果を踏まえて当初の指導案とは異なる授業展開を行うなどして、評価を指導改善につなげることを意識した取組を行った。実践事例Ⅱにおいては、評価の前後における生徒の学習到達状況の変化を、ワークシート上の記述から分析した結果、約8割の生徒の思考力・判断力が向上したことが検証できた。

2 指導と評価の一体化を進めることで、学習目標の着実な達成を図ることができ、生徒の主体的な課題探究意欲を促進することが、思考の深化につながることを検証できた。

- (1) 本研究では指導と評価の一体化を実行するため、一授業時間内において必ず学習評価を実施し、その結果を次の授業展開等に生かしていくことで、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図ろうとした。各研究員は自らの日々の授業において、学習評価を通じて生徒の到達段階を把握することに努め、柔軟にその後の授業展開に工夫を加えるなど、生徒が着実に次の段階へ進めるような指導の改善を行った。こうした取組を通じて、学習評価を適宜取り入れた学習活動が定着することで、生徒が自己の課題を積極的に見出し、主体的な課題探究に向けた意欲を向上させ、そのことが生徒の思考の深化につながることを実証できた。

(2) 実践事例Ⅰでは、地域の経済開発か環境保全かというまちづくりへの意見対立を想定して課題探究学習を展開した。賛成・反対の意見対立を明確化することで、両者の意見の相違を際立たせた上で、その解決方法を模索させ、社会全体の幸福の実現について思考、判断させた。この過程において学習評価を取り入れ、授業者が課題を考察するための視点を明示することで、約7割の生徒が明確な根拠を基に意見を表明できるようになった。適切な学習評価と生徒の学習状況を踏まえた指導の改善を通じ、学習目標の達成とともに課題探究意欲の向上が図られることで、生徒の思考が深まることが実証できた。

Ⅶ 今後の課題

1 「指導と評価の一体化」を図るための指導の在り方について

今年度の研究では、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるために、「指導と評価の一体化」をいかに進めていくかを主題として授業実践や研究協議を深めてきた。各検証授業では、ロールプレイングなどの言語活動を取り入れながら、生徒の主体的な活動を重視した授業を実践した。その中で、積極的に発言や発表などを行う生徒がいる一方で、自らの意見を発表できず、他者に同調してしまう生徒も見られたが、ワークシート等の工夫により、生徒の意見がどのように変化したかを客観的に見取ることで、次の指導改善につなげることができた点は有益であった。また、全ての検証授業を現代社会で実施したが、言語活動を取り入れながら、幸福、正義、公正などの観点を明示して学習評価を行い、現代社会の諸課題を一定の根拠に基づいて考察させるという授業形態のモデルを提示できたのではないかと考える。来年度以降、新学習指導要領が本格実施となる「現代社会」については、特に大項目「(1) 私たちの生きる社会」において、その後の学習に生かすことのできる社会の在り方を考察するための枠組みを理解させることが重要になる。その意味で、指導と評価の一体化の取組によって、幸福、正義、公正などの考え方を理解させることで、以後の学習において、生徒が思考力・判断力・表現力を更に向上させていくための土台を形成することが可能になると考える。今後は、「倫理」や「政治・経済」についても、科目の特性を踏まえた「指導と評価の一体化」のための工夫が求められる。また、「指導と評価の一体化」を突き詰めれば、授業内での学習評価を通じて授業の組立て自体を途中で変更したり、個々の生徒の到達段階を踏まえた個別の対応が必要になることも考えられる。その意味で、「指導と評価の一体化」を研究主題とする場合、単発の研究授業で検証を行うのではなく、同一内容の授業についてクラス間での比較を行ったり、一定期間の授業の流れや変化を追っていくという手法も検討すべき課題であると考えられる。

2 「指導と評価の一体化」を図るための評価の在り方について

「指導と評価の一体化」を図る上で最も重要になるのが、適切で公正な評価規準である。各検証授業では、思考力、判断力、表現力の向上を最重要の課題と捉え、段階的な評価規準を作成した上で、社会の在り方を考察するための基本的枠組みを構成する幸福、正義、公正などについて正しく理解させ、生徒の思考を深めさせるという方法を採用した。各事例とも、授業者による評価、生徒による自己評価及び生徒相互による評価を念頭に置き、生徒の社会的事象への理解や考え方が授業前と授業後でどのように変化したかを段階的な評価規準を設

けて見取ることができた。しかし、正確な成果の検証という点では、思考力、判断力、表現力の向上を具体的にどのような指標で測定するかという点も含めて、十分な議論が行えなかったという反省も残る。

本研究において、「指導と評価の一体化」について考察し、授業実践を行う中で、1時間の授業内においても、評価を通じて「指導→授業内評価→指導の再構築」という指導の変化が求められることを改めて実感させられた。高等学校の地理歴史・公民科では講義式授業が多いと指摘されることもあるが、生徒の到達段階や学習状況等を踏まえて、指導にも柔軟な変化を加えていくことが重要である。その意味で、生徒の学習状況をより詳細に把握し、適切な評価を実現しようとするならば、観点別学習状況評価の効果的な活用法についても検討を行う必要がある。今年度の本部会においても、観点別学習状況評価について適宜意見交換を行った。次年度以降、指導方法や指導内容の工夫のみならず、観点別学習状況評価についても視野に入れた研究を行う必要があると考える。

平成24年度 教育研究員名簿

高等学校 ・ 公民

学 校 名	課 程	職 名	氏 名
東京都立桜修館中等教育学校	全日制	主任教諭	◎ 高橋 勝也
東京都立府中工業高等学校	全日制	主任教諭	阿部 隆文
東京都立足立工業高等学校	全日制	教 諭	○ 白井 裕輔
東京都立小平高等学校	全日制	教 諭	浅川 貴広
東京都立江東商業高等学校	全日制	教 諭	唐松 真紀
東京都立篠崎高等学校	全日制	教 諭	栗城 健彦
東京都立葛飾総合高等学校	全日制	教 諭	中川 俊明

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課 統括指導主事 櫛野 治和
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 指 導 主 事 山本 勇

平成24年度
教育研究員研究報告書

高等学校・公民

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕

平成25年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6882
印刷会社 株式会社 イマイシ